

# マイクロソフトが国内で iOS アプリ版の Office を提供開始

米マイクロソフトは 2014 年 11 月 6 日、パソコン向けに提供している Office ソフトのスマートフォン／タブレット用アプリの国内提供を開始した。iPhone/iPad 向けで、App Store から無料でダウンロードできる。2015 年初期には、Android 版も提供する予定だという(図 1)。

## ●スマートフォンやタブレットで使える Office が登場

Windows用Officeとの比較で利用できない主な機能		
 <b>Word</b>	 <b>Excel</b>	 <b>PowerPoint</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・スタイルの追加やカスタマイズ</li><li>・埋め込みオブジェクトやグラフデータ、SmartArtの追加と更新</li><li>・文末脚注や引用文献、キャプション、目次の追加と更新</li><li>・文章校正</li><li>・マクロの実行</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・スライサーやタイムラインでのデータの並べ替えやフィルター処理</li><li>・条件付き書式の追加と更新</li><li>・データ入力規則の追加と更新</li><li>・ピボットテーブルの新規追加</li><li>・マクロの実行</li><li>・コメントの追加と編集</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ビデオの再生、追加、変更</li><li>・オーディオの再生、追加、変更</li><li>・スライドアニメーションの追加、変更、削除</li><li>・背景画像の追加、変更、削除</li><li>・コメントの追加、変更、削除</li></ul>
 iPhone/ iPad	iOS 7.1以降	
 Android スマートフォン／タブレット	2015年初期に提供予定	

図 1 米マイクロソフトは、スマートフォンやタブレットで利用できる無料の Office アプリを提供する。まずは iPhone/iPad 向けで、Android 搭載機器向けにも、2015 年初期に提供する

Microsoft アカウントでサインインするだけで、無料で編集機能が利用できる。これまで海外では iPad 用が提供されていたが、編集するには Office 365 のアカウントが必要だった。国内では簡易編集が可能な無料アプリ「Office Mobile」のみだった。

Office アプリ「Word」「Excel」「PowerPoint」の登場により、iPad や iPhone さえあれば Office 文書を作成、編集できるようになった(図 2)。パソコンと比較すると、マクロや文章校正機能、スタイルの追加、データ入力規則の追加など、非対応の機能はあるが、「純正」アプリだけに再現性は高い。

## ●パソコンなしでも Office 文書を作成・編集



図 2 パソコンがなくても、iPhone や iPad さえあれば Office 文書を手軽に編集できるようになる

## Dropbox も読み書き

新たに提供が始まった 3 つの Office アプリは、作成したファイルを、iPhone や iPad のメモリー内か、オンラインストレージに保存する仕組みになっている。オンラインストレージとしては、マイクロソフトの「OneDrive」だけでなく、米ドロップボックスの「Dropbox」も使える(図 3)。それぞれ複数のアカウントを登録できるので、仕事用、プライベート用などと使い分けることも可能だ。

### ●OneDrive や Dropbox と連携できる

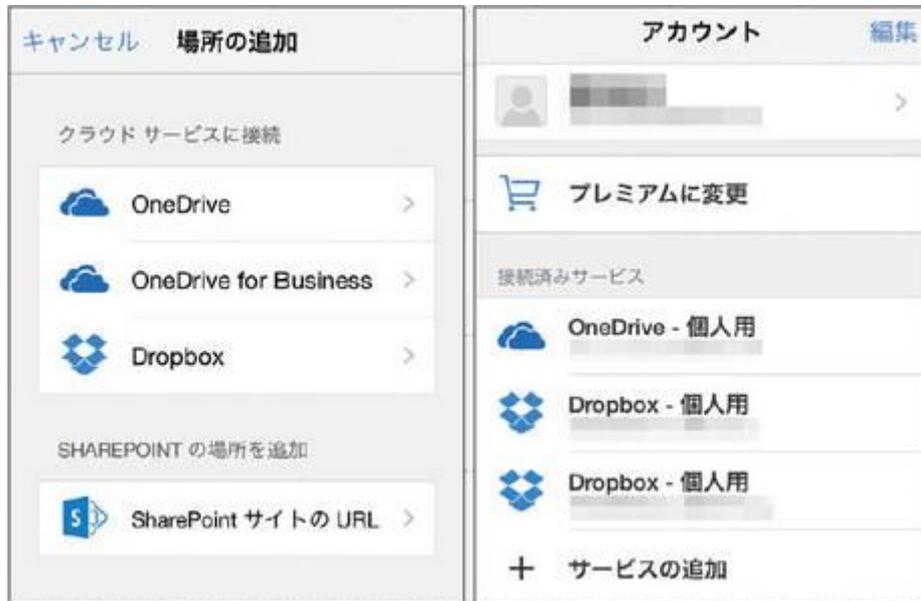


図 3 Microsoft アカウントでサインイン後、ファイルを参照、保存するクラウドサービスを登録できる。OneDrive のほか、Dropbox にも対応。複数登録することも可能だ

実際に Word、Excel、PowerPoint のファイルを作成、編集すると、iPad を使っている限りは快適だ(図 4)。画面上のメニュー表示はパソコン版と異なるが、ほぼ同じ感覚で使用できる。

### ●iPhone 5/5s での操作はかなり窮屈



図 4 iPad なら参照、編集ともに苦はないが、iPhone は表示スペースが限られる。解像度が低い iPhone 5/5s で編集しようとするときかなり窮屈だ

しかし iPhone では、かなり画面が窮屈で使い勝手が悪い。解像度が高い iPhone 6 Plus ならまだしも、5/5s では操作メニューを表示すると画面の半分を占めてしまう。ファイルの確認や、簡単な編集程度に用途が限られそうだ。

編集機能や再現性は、パソコン用の Office に近い。図形オブジェクトやレイアウト、グラフなどの再現性は、サードパーティ製の Office 互換アプリや、Web ブラウザーで利用する「Word Online」「Excel Online」よりも高い。「Word Online」や「Excel Online」は、閲覧モードこそ再現性が高いものの、編集モードに切り替えるとレイアウトが崩れる、オブジェクトが消えるといった弱点があった。アプリ版ではそういった場面は少ない(図 5)。

## ●Office Online よりも実用的

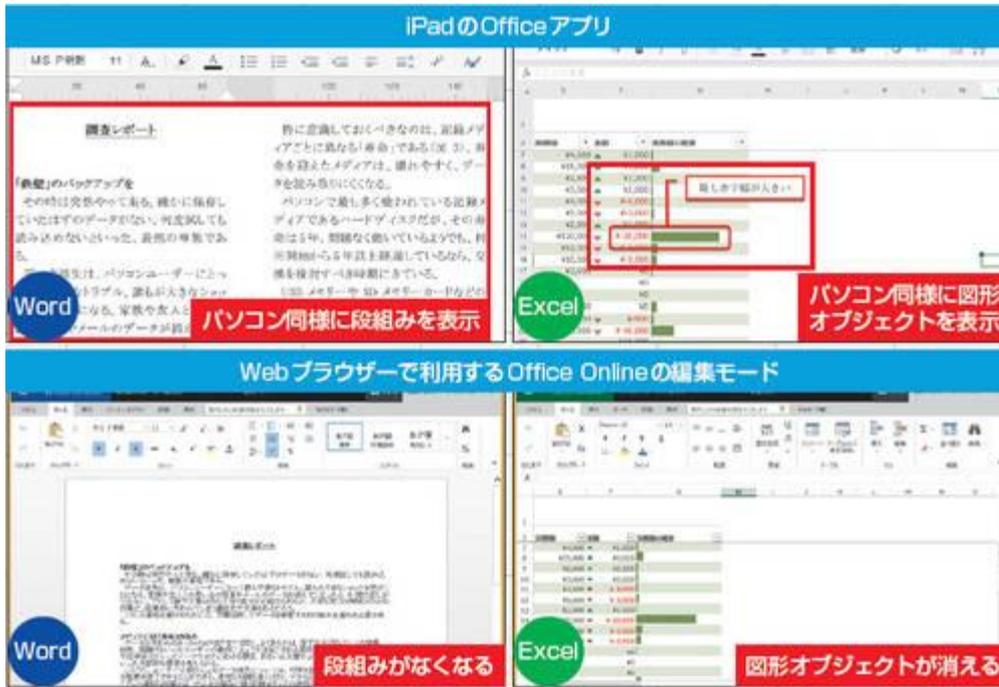


図5 これまで簡易版 Office という OneDrive から利用できる Office Online だったが、利用できない機能が多かった。iPhone/iPad 用のアプリはそれらよりも機能が上で再現性が高い

## 一部機能は「プレミアム」

ただ、一部の機能は「プレミアム機能」とされ、無料ユーザーの Microsoft アカウントでは利用できないよう制限されている。例えば、Word でオブジェクトに影を付けようとする、通知画面が表示される(図6)。

## ●一部の機能は Office 365 ユーザーのみ利用できる

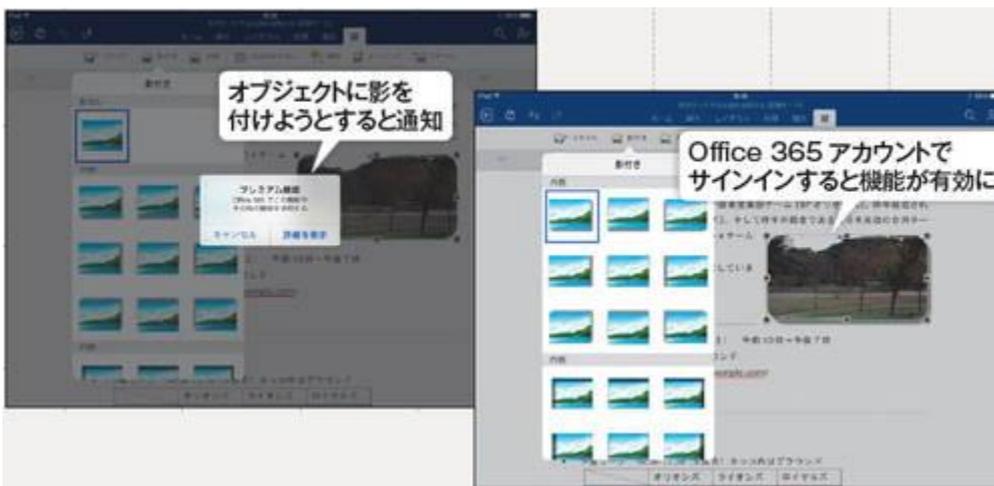


図6 一部機能は、「プレミアム機能」と位置付けられ、Office 365 の Microsoft アカウントでサインインした場合だけ利用できる

こうしたプレミアム機能としては、Word では、セクション区切りの挿入、ヘッダーとフッターの別指定、印刷の向きの変更、変更履歴の記録などがある。Excel では、ピボットテーブルのスタイルとレイアウトのカスタマイズ、ユーザー設定の色の使用、グラフ要素の追加・編集など。PowerPoint は、プレゼン中のスピーカーノートの参照、ユーザー設定の色の使用、WordArt の追加・編集などがプレミアム機能となっている。

利用するには、会社や学校で利用している Office 365 の Microsoft アカウントか、個人向けの「Office 365 Solo」またはパソコンにプリインストールされた「Office 365 サービス」の Microsoft アカウントでサインインする。すると、通知画面は表示されなくなる。Solo の場合は、Office を利用できる機器の数が、iPad などタブレットが 2 台、iPhone などスマートフォンも 2 台までなので、注意しよう。